



早馬神社

(宮城県気仙沼市唐桑町)

約800年前、唐桑の石浜に創建され、慶長3年(1611)の慶長大津波により現在の宿浦へ遷座した

唯一残った早馬さん 在り続けることが心をつなぐ

「宿浦と呼ばれるこの浜は昭和のころまで遠洋漁業が盛んで、それは羽振りがよかったものです」。境内から湾を眺め、当時を懐かしむ早馬神社の欄干・梶原壮市さん。その視線の先には一軒の家すらなく、巨大防潮堤の建設を待つ更地が広がるばかりだ。

過去の経験から宿浦では、「地震があったら津波の用心」が慣わしだ。あの3月11日も、10人ほどが海拔12メートルの境内へ避難。そこへ15メートルの大津波が襲う。「家や車が流されるのを見て、さらに10メートル高い社へ逃げました」。足の不自由なお年寄りも周囲の人が支えて石段を上がり、全員が間一髪、難を逃れた。

唐桑の生業は、その多くが漁業。特に、上質なワカメや牡蛎の漁獲で知られる。しかし、津波で家も船も漁具も失い、漁師の多くは再起する気力さえなくしたという。「でもあるとき、地元のリリーダーが『浜の片付けだけは最後までやろう』と呼びかけ、漁師を集めました。毎日浜へ出て働くでしょう、すると、もう海は見たくもないと言った人までも、元氣を取り戻したんです」。親交のある神奈川県小田原市の報徳二宮神社が、ボランティアの派遣やチャリティー活動による寄付などでいち早く支援を行なったことも、漁業の復活を後押しした。

地域は災害危険区域に指定され、この先、人が住むことはない。早馬神社だけが残り、静かな湾を見下ろしている。「住民の皆さんは、まとまって高台移転されます。常にお顔が見える距離ではありませんが、心のつながりは続きます。われわれはいつもここについて、果たすべき役目を全うしてまいります」

「早馬さん」がここに在り続けることが、これからも住人たちの心を支えていく。



巡礼地と千年物語を募集中!

巡礼地とその場所にまつわる千年先まで語り継ぎたい物語を募集しています。

一般社団法人東北お遍路プロジェクト
<http://tohoku-ohenro.jp/>

- 1 親交のある報徳二宮神社の支援で制作された絵馬
- 2 震災直後の写真パネルが展示されている
- 3 欄干の梶原壮市さん
- 4 自然の脅威を後世に伝えるべく、津波到達点を示す石碑が境内に建つ